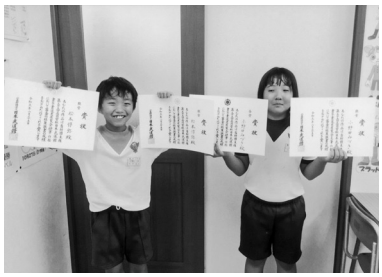
書塾の仲間たち

第 200 回

むぎ進学教室　書写ラボ（静岡県浜松市）



●書塾からひとこと●

むぎ進学教室は静岡県浜松市に九教室を展開している学習塾です。そのうちの五教室で、一つの文字を〝一秒で、速く、美しく書ける〟ことを目標とする速書・書写書道の指導に取り組んでいます。今年で創塾四十二年目を迎え「できない子はいない、誰もが必ず伸びる」という信念のもと、地域の子どもたちへの学習指導に全力を尽くしています。

そして、速書・書写書道教室では次の五点に力を入れて指導しています。

一、書写を通した人間教育

「字をきれいに書く」だけでなく、書写練習を通して前向きに生きる心と粘り強い精神力を持ち、やり遂げる力を育みながら、文字を書くことが好きになるよう指導しています。

二、硬筆に自信を持たせる

硬筆は子どもたちの毎日の学習に欠かせないスキルです。手書き力を高める書道トレーニングによって脳を活性化し、速書きトレーニングで学力アップ。「むぎ進学教室　書写ラボ」が開発した文字練習教材と練習法で自分の字に自信を持ち、字を書くことが好きな子に育てています。

三、漢字検定対策と学習習慣

検定に合格することは子どもの自信になります。また教室だけでなく、家庭での学習習慣も身につき、子どもたちの頑張りにより、漢字検定合格率は一〇〇％です。

四、学校の書写サポート

学校の長期休みの宿題サポートだけでなく、毎日書き取り指導をすることで、学んだスキルは学校でも生かすことができます。学校生活がワクワクするように指導しています。

五、名前・三行書きコンテスト

自分の名前をきれいな字で書くことができると自分自身に強い自己肯定感が育まれます。そのため、毎月、鉛筆、フェルトペン、筆ペン、小筆の四種類の用具で名前コンテストを実施しています。

ことば（言葉）＝こころ（心）であり、善い言葉は善い心を形成する源です。書写ラボは子どもたちの持つ無限の可能性を伸ばすため、これからも〝速書・書写書道指導〟に取り組んで参ります。

静岡県浜松市
株式会社むぎ進学教室　　岡田　純彰

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

もっとパワーアップ。むずかしい字もきれいに書きたい

江東区立第二砂町小学校三年　高橋（たかはし）　唯斗（ゆいと）

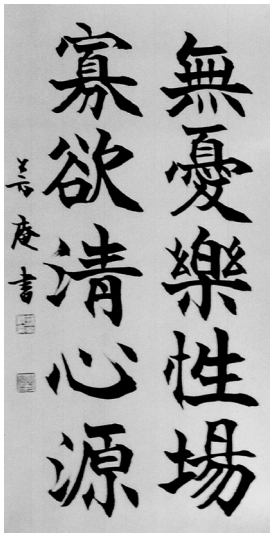
ぼくは、一年生の秋からこう筆を習い始めました。練習は、えん筆で先生のお手本をよく見て書くことから始まりました。なかなかうまく書けないこともありましたが、うまく書けたときには先生にほめてもらえたので、とてもうれしくなりました。ひらがな、カタカナ、漢字の順番で、きれいに書けるようにいっぱい練習しました。

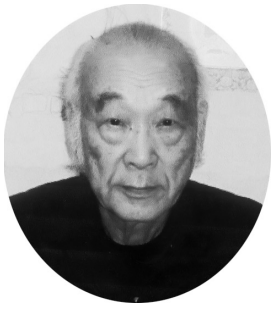
二年生になって、えん筆になれてきたので毛筆も始めました。毛筆はこう筆とぜんぜんちがい、書こうとすると、きんちょうして、字が細くなったり太くなったり、線がうねったりしてしまいました。それでもつづけていくうちに、少しずつうまく書けるようになってきたと思います。

三年生になり、学校の毛筆のじゅぎょうでも、書いた字を友だちにほめてもらえることがあります。きょう書誌にも自分の作品がのったり、しょうじょうをもらえるようになって、あら木先生にとてもかんしゃしています。

これからも書道を続け、もっとパワーアップして、むずかしい字や習っていない漢字もきれいに書けるようになりたいと思っています。

私と書写書道





師の言葉「毎日筆を持ち、一字でも書く」

我孫子市　落合（おちあい）　芳庵（ほうあん）

私は現在、宮部朱萌先生が主宰される我孫子市内の書道教室で、指導のお手伝いをしております。先生から、新しい書道誌を探していると相談を受け、検討の末、文部科学省だよりや小・中学校の学習指導要領等、子供の教育に必要な項目が充実している月刊「書写書道」を採用することになりました。教室で、子供たちと一緒に自分自身も勉強しながら書に取り組んでいます。

振り返れば、四十四年前、職場で書道を始めることになり、家にあった五冊の書道誌を手本に、筆を持ったのが書道との出合いでした。家にあったその書道誌は、父が使用していたものでした。父の時代は、半紙の代わりに新聞紙を使い、真っ黒になるまで父が書いていたのを記憶しています。

昭和六十年ごろ、ある書道講習会で出会った人から「楷書を習いたいなら、松本芳翠（まつもとほうすい）先生の最後のお弟子さんである池上翠漣（いけがみすいれん）先生から指導を受けると良い」と薦められ、入門を決めました。あれから四十数年、楷書のほか、行書や草書、篆書、隷書についても指導を受けてまいりました。

池上先生には「毎日一字でも筆を持って書きなさい」と座右の言葉を戴（いただ）きました。私は現在もこの言葉の通り、毎日一字でも筆を持ち、書き続けることを旨としております。旅行などから遅く帰って来た日も、必ず筆を持ちます。お蔭で大変充実した書道生活を過ごすことができていると感じています。師の言葉を携えて、これからも精進して書の道に励みたいと思います。